

# 市立甲府病院 地域医療連携だより

平成 29 年  
12 月号  
Vol.19

## 基本理念「いのちに光を、心にやすらぎを」

いのちの大切さを重んじ、患者さんとの相互信頼の上に立った医療をめざします。



### 地域がん診療連携拠点病院

#### 目次

- ◆ 院長あいさつ
- ◆ 放射線診断科より新検査のお知らせ
- ◆ 勉強会開催
- ◆ トリアージ訓練

#### 院長あいさつ



院長 藤井 秀樹

地域の各医療機関の皆様方には、当院の地域医療連携への取り組みに対しまして、変わらず、ご理解とご協力、さらにはご指導を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。また、当院に就任いたしましたから、地域の医療機関の皆様とお会いし、様々なご指摘、ご要望をいただきました。

そのうえで、再度、当院の「地域での立ち位置」を考える必要があると感じております。まず、地域の先生方の当院へのニーズは多様であることは事実ですが、その本質は、先生方を頼ってこられた患者さんが、当院へ紹介され来院されたときに、「紹介してもらってよかった」と思っていただけのような、入口（受付、入院）から出口（会計、退院）までの一貫した良好な環境が整備されていることだと考えます。これには病院すべての職員の統一した意識が必要です。難しいことではありますが、この意識の育成・醸成に努力してまいりたいと思います。

次いで先生方の多様なニーズに誠実にお応えしなければなりません。当院は県下で3番目の病床を有する公立病院であり、しかも、私自身再認識したのですが、かなり高度な専門性に富んだ領域も多く担当しております。従いまして、このような専門性の高い疾患の患者さんをご紹介いただきました際は必ず受け入れさせていただき、かつ、その診療過程を、ご紹介いただきました先生方と共有する体制を構築したいと思っております。

また、先生方のご要望の最重要課題であるともいえますのが、救急患者への対応かと思っております。この救急体制に関しましても、当院では可能な限り対応させていただいておりますが、限界を感じていることも事実であります。その根底には、救急に対応可能な医師の不足があり、現在、さらなる医師の確保に努力しているところではあります。一方で、地域として救急体制を抜本的に改革することも必要かと考えています。これには全県の救急医療体制の再構築を見据えなければなりません。当院もリーダーシップを発揮して地域の救急体制の充実に寄与したいと思っております。

今後も、ご指摘、ご要望がございましたら、「地域医療支援室」にお申し出いただければと存じます。皆様とともに地域医療のさらなる充実のため邁進する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 放射線診断科より お知らせ ダットスキャン (DatSCAN) 検査 始めました

3年前に核医学において新しい検査薬として発売された『ダットスキャン静注』が当院でも使えるようになり、検査が出来るようになりました。ダットスキャンはドパミントランスポータースキャンの略称です。パーキンソン症候群及びレビー小体型認知症の早期診断に寄与します。

### ダットスキャンの特徴

- 黒質線条体ドパミン神経の脱落の有無という条件が得られる。
- 投与後3～6時間に1回スベクト撮影することで黒質線条体ドパミン神経終末部のドパミントランスポーターの分布を反映する画像が得られる。
- パーキンソン症候群の診断精度の向上が期待される。ダットスキャン検査を既存の診断情報に追加することにより、パーキンソン症候群の診断精度の向上が期待され、黒質線条体ドパミン神経の状態に応じた治療方針決定に寄与することが期待されます。
- レビー小体型認知症の診断精度の向上が期待される。ダットスキャン検査を既存の診断情報に追加することにより、レビー小体型認知症の診断に貢献することが期待されます。

※ この製剤の線条体への集積低下はDLB国際臨床診断基準において示唆症状の一つに上げられています。

※ ダットスキャン静注はヨウ素-123を使用します。γ線を放出するシンチグラムに適した核種です。半減期が13.27時間と短く被曝も少ない検査です。

### 先生方へのお願い

中枢神経刺激薬：メチルフェニデート塩酸塩  
三環系抗うつ剤：アモキサピン  
食欲抑制剤：マジンドール  
コカイン系製剤：コカイン塩酸塩  
中枢興奮剤：メタンフェタミン塩酸塩

以上の薬剤に関しては、線条体における本剤の集積低下の原因となる可能性があります。画像を評価する際に留意が必要となる為、内服内容の確認をさせていただきます。

## 第67・68回 地域医療連携勉強会が開催されました



平成29年9月8日(金)、甲府在宅ネットワークとの共催による第67回地域医療連携勉強会を開催しました。講師には甲府在宅ネットワークから「ゆうぎ訪問看護ステーション」所長 並木奈緒美先生、「のだ内科クリニック」院長 野田嘉明先生をお迎えし、「診療所・病院・訪問看護ステーションにおける病院・診療所との連携」をテーマに下記の演題で講演が行われました。

地域の先生方をはじめ、様々な職種約120名近くの方々にご参加いただき、開催することが出来ました。

演題1「訪問看護ステーションにおける病院・診療所との連携」  
並木奈緒美先生

演題2「病診連携から病診協働へ～甲府在宅ネットの目指すもの～」  
野田 嘉明先生

## 当院での検査の流れについて

### 検査当日の流れ

- ① メガネやヘアピン、補聴器など頭部の金属類は、はずします。
- ② 「ダットスキャン静注」を静脈注射します。  
注射時に疼痛を生じる場合が多い為、2分かけてゆっくり注射します。
- ③ 注射後、3時間待ちます。  
薬が体内に十分取り込まれるまで時間を置きます。特に制限(活動・飲食)はありません。  
検査までは自由にして頂いて構いません。
- ④ 撮影をします。検査台に仰向けに寝て行います。  
撮影時間は約30分です。その間は動かないようにします。



### 注意事項

- 検査の為の制限はありません。
- 検査薬にはアルコールが含まれています。  
アルコールに強い反応を示す方は事前に伝えてください。

### 費用

保険適用：1割負担 約1万円 3割負担 約3万円弱

検査の予約は、これまでと同様に「地域医療連携係 FAX 055-220-2660」で承ります。

検査の詳細につきましては、放射線診断科(下記)へ直接お問い合わせ下さい。  
内線：1153 中央放射線室受付

平成29年11月10日(金)には、第68回地域医療連携勉強会を開催しました。

当院の産婦人科小川恵吾医師より「妊娠とくすり」をテーマに行われ、地域の先生をはじめ35名のご参加をいただき、活発な意見交換が行われました。

演題「妊娠とくすり」  
～一般診療で妊婦に出せる薬、出せない薬～  
産婦人科部長 小川 恵吾先生



今後も登録医の先生方のご要望、ご意見を取り入れながら実地診療に役立つ演題を用意して開催させていただきますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。



## 地域がん勉強会が開催されました

平成 29 年 10 月 6 日（金）、当院がん診療委員会主催のがん勉強会を開催しました。地域の先生方や看護師の方々他、当院職員含め 40 名の参加となりました。

「日常診療におけるがん患者・家族への対応について」をテーマに当院の緩和ケア内科科長小林薫医師の講演後、グループワークを行い、活発な意見交換がなされました。

### 次回勉強会のご案内

地域がん勉強会	平成 30 年 2 月 9 日（金）
地域医療連携勉強会	平成 30 年 3 月 2 日（金）
	甲府在宅ネットワークと共催

## トリアージ訓練実施

平成 29 年 11 月 12 日（日）に「マグニチュード 7 の東海地震が発生。甲府市で震度 6 強を観測、多数負傷者が発生した。」との想定でトリアージ、各治療ゾーンでの負傷者対応の訓練を行いました。

増坪町・上町自治会有志、病院ボランティア、甲府市赤十字奉仕団、甲府看護専門学校、甲府地区消防本部の参加に加え、今回は甲府市医師会からも参加頂き、約 250 名参加で行われました。



## 追記

いつもきれいな花を咲かせてくださるボランティアの方々です。皆さん丁寧にプランターへ植えて頂きました。

